

公開セミナー

子どもの貧困／不利／困難を考える

Part 2 子どもの貧困への多様なアプローチ

「子どもの貧困と母親の就業」の背景と背後

室住真麻子

(帝塚山学院大学人間科学部)

本テーマの背景

- ◆女性労働研究→子どもの存在、子どもの貧困が見えにくい。
- ◆子どもの貧困研究→母親の就業が見えにくい。
- ◆子ども、母親・(父親)、個々の存在を浮き彫りにしつつ、子どもの貧困世帯の状況を明きからにする方法を模索。

本テーマの背景

2つの文献によって気づかされたこと

1. エスピン＝アンデルセン, G. (大沢真理監訳)『平等と効率の福祉革命』2011年、岩波書店(原題 The Incomplete Revolution〈未完の革命〉)。

→高学歴の共働き世帯で経済的豊かさだけでなく、子育てに時間を費やせる階層とそのようにできない階層の子どもたちの状況を浮き彫りにしている。

→女性たちの「未完の革命」は、子どもたちに対しても重大な影響を及ぼしていることを示唆。

→社会的出自に縛られることなく、社会階層を超えて、すべての子どもたちに機会の平等をもたらすという福祉国家の祈願が、一部の国々を除いて一層困難になっていることを示唆。

本テーマの背景

2つの文献によって気づかされたこと

2. Millar, Jane and Ridge, Tess (2013) “Lone mothers and paid work : family-work project”

→社会政策において、子どもは親たちが仕事と家事のやりくりをする際の受動者として家族内のお荷物のようにみられる傾向がある。貧困世帯の子どもたちが貧困に対処するにおいて、家族内、学校、友人、社会活動のなかで積極的な役割を果たしている子どもの現実を取り込むことの重要性を示唆。

→母親の就業をサポートする子どもたちの実態を浮き彫り。

→子どもたちの貧困の体験、母親が就業することに対する子どもたちの「本音」などインタビューを通じてから明らかにしている。

本テーマの背景

1の研究から学んで試行した研究作業

- ①子どものいる世帯の母親の就業状況を(集合的な統計から)分析してみようと考えた。
- ②「大阪子ども調査」(阿部・埋橋・矢野、2014)による母親の就業状況別貧困率の推計。
- ③併せて、先行研究を援用して、世帯所得階層別にみた家事・育児時間の実態の検討。

①子どものいる世帯の母親の就業状況 (図表7-1、7-2、7-3、7-5を参照)

◆図7-1:末子の年齢別母親の就業状況(割合)

とくに、3歳未満の幼児のいる世帯の母親と3-5歳の小学校入学前の子どものいる世帯の母親の就業率が上昇している。

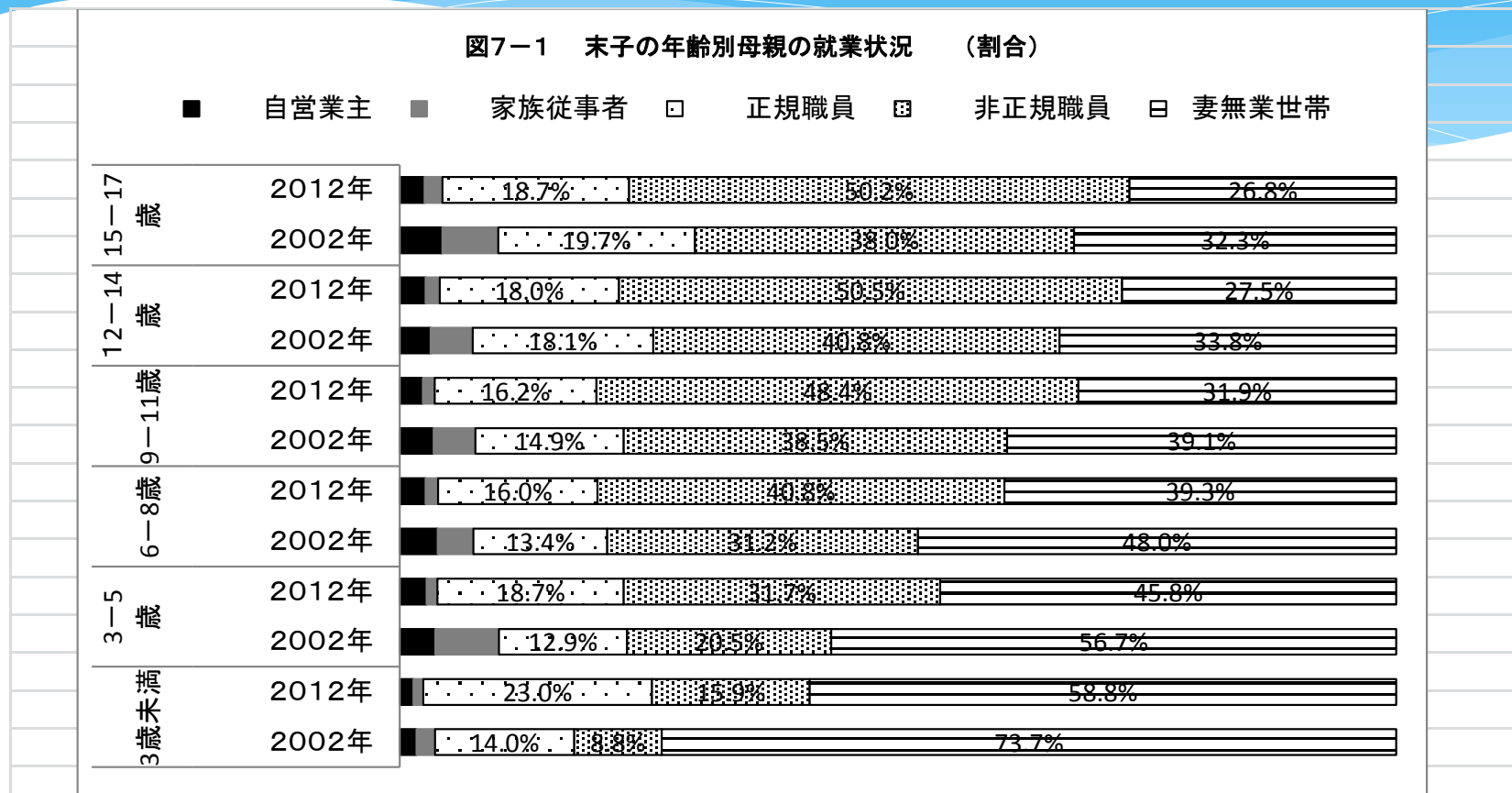
◆図7-3:末子の年齢別母親の就業形態

子どもをもつ母親の働き方が非正規雇用中心に拡大しているなかで、幼児のいる世帯の母親の場合、正規職員として働く母親が多い。

◆図7-5:末子の年齢別・世帯所得階層別母親の就業率

世帯所得が相対的高くなるにしたがって、母親の就業率が高い傾向を示す。

図7-1 末子の年齢別母親の就業状況(割合)

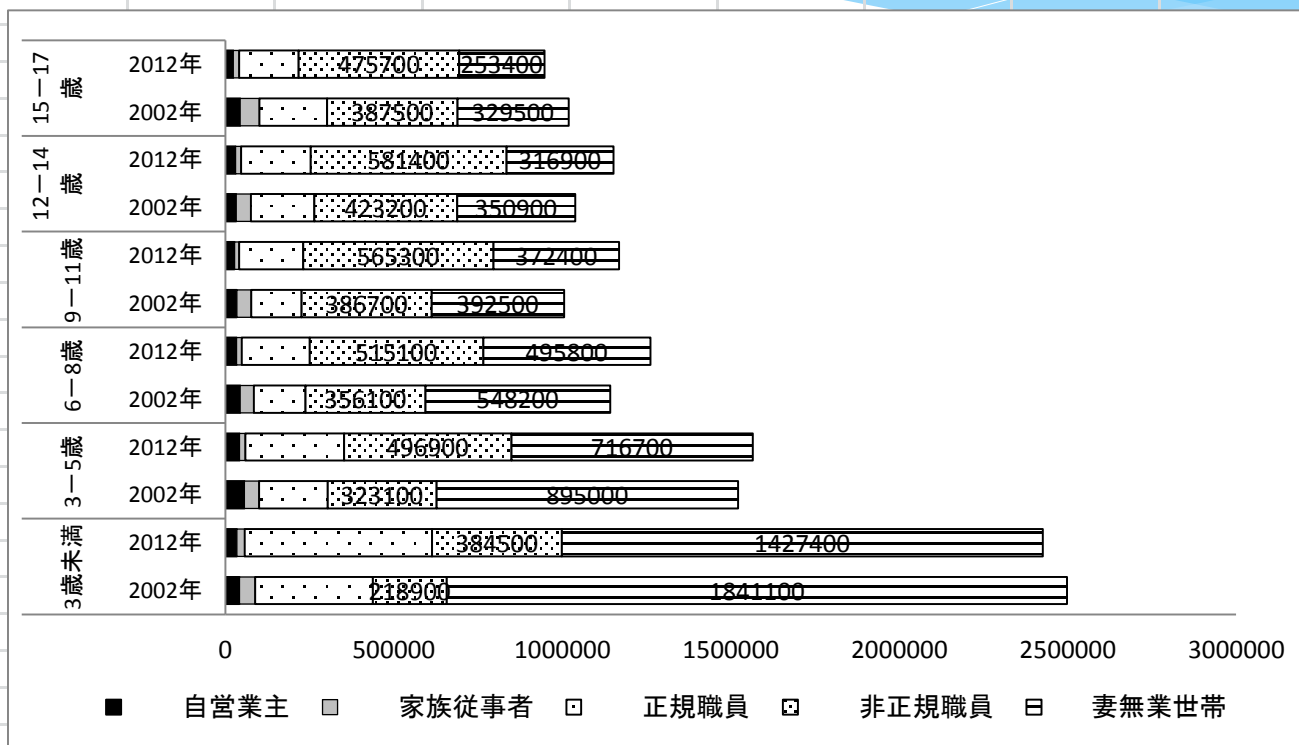


注: 夫婦と子どもだけの世帯

出所: 総務省統計局「就業構造基本調査」より作成

図7-2 末子の年齢別母親の就業状況(実数)

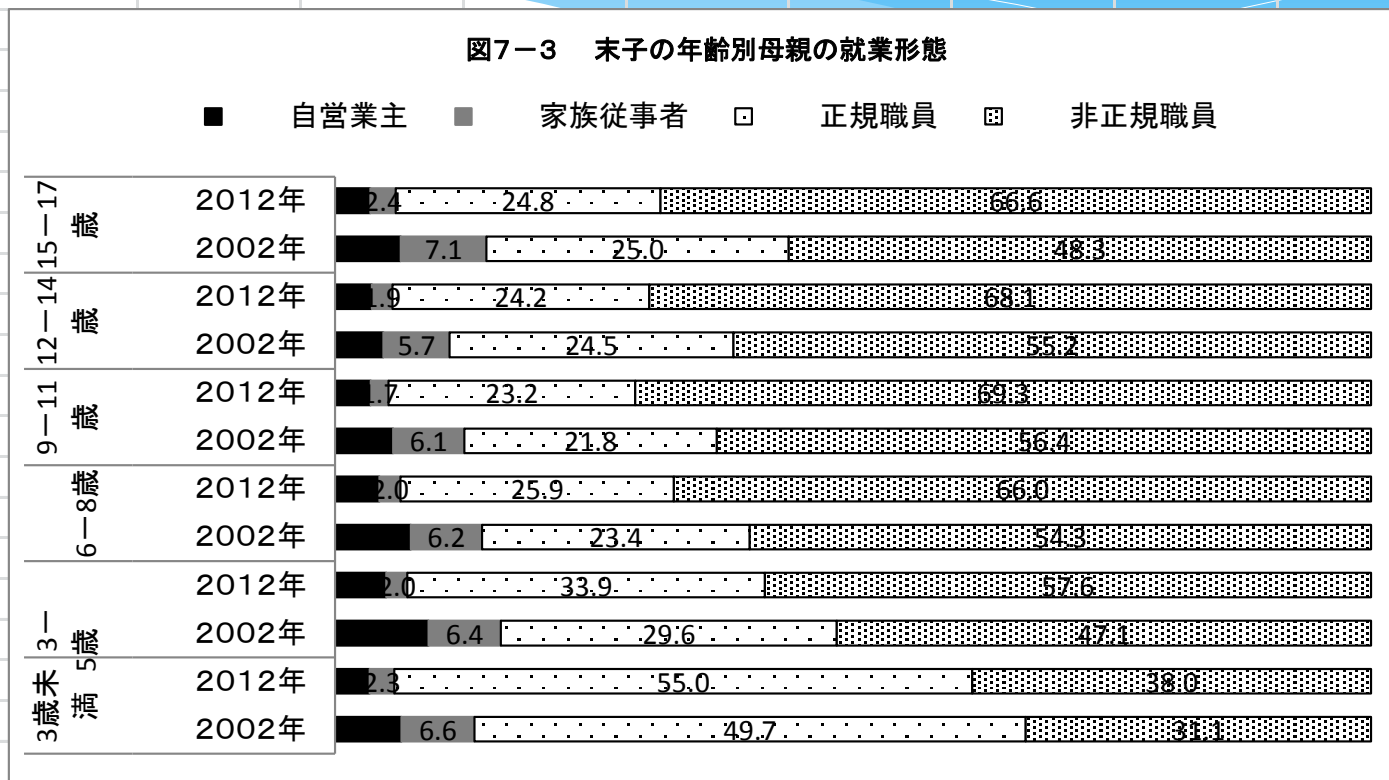
図7-2 末子の年齢別母親の就業状況 (実数)



注: 夫婦と子どもだけの世帯

出所: 図7-1に同じ。

図7-3 末子の年齢別母親の就業形態



注: 夫婦と子どもだけの世帯
出所: 図7-1に同じ。

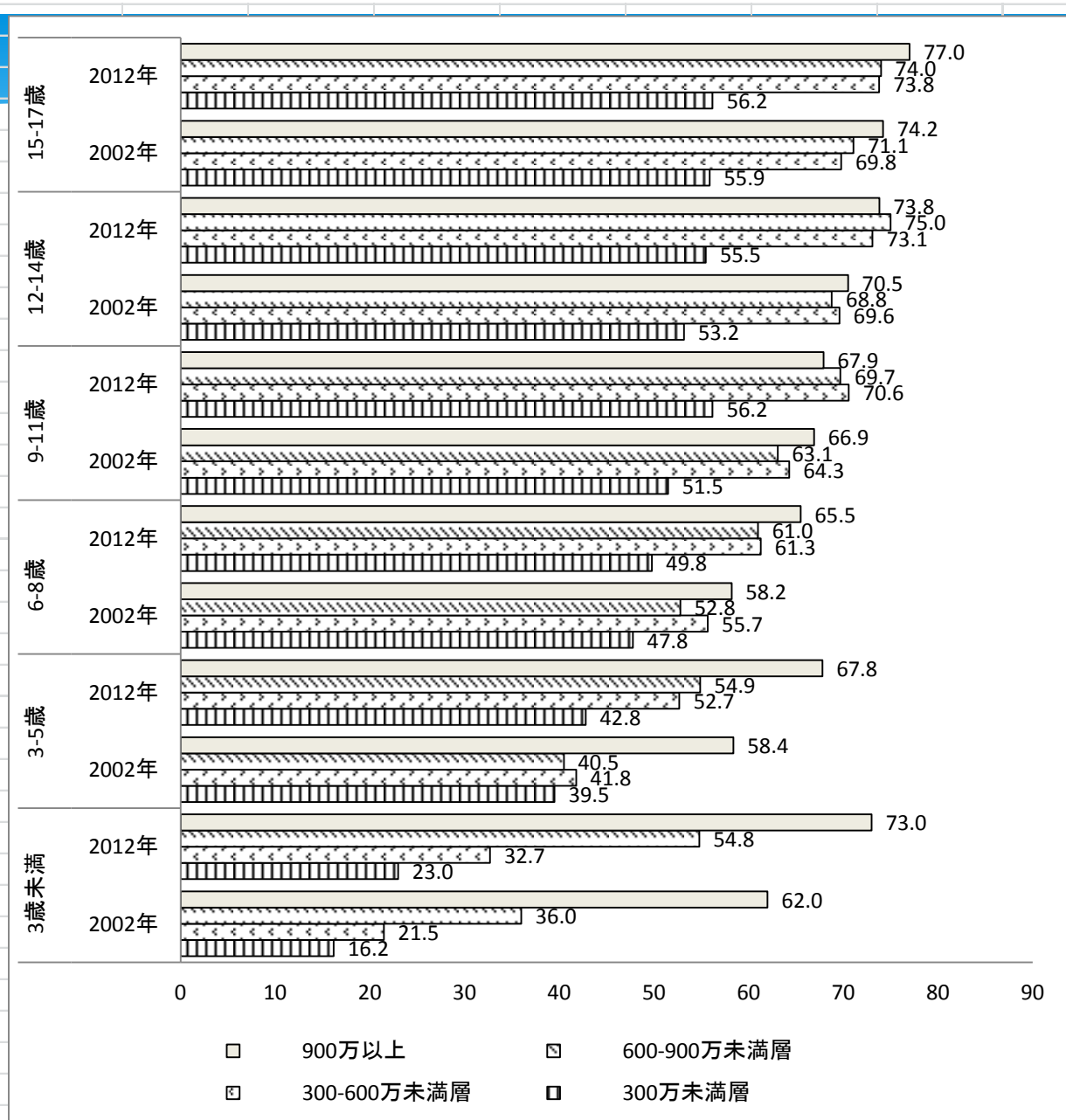


図7-5 末子の年齢別世帯所得別にみた母親の就業率（夫婦と子どものみの世帯）

出所：総務省統計局「就業構造基本調査」より作成。

②「大阪子ども調査」による母親の就業状況別 貧困率

- ◆「大阪子ども調査」(可処分所得による推計)と労働政策・研修機構(税込み所得による推計)は異なる基準、母親の就業形態分類もやや異なる。
- ◆共通点としては、母親が正社員として働く世帯の貧困率が最も低い。
- ◆表7-5によると、母親がパート・アルバイトとして働く世帯の世帯所得は母親無業世帯よりもやや低いが、貧困率は約4%低い。母親の就業が「貧困層への『転落』を防御している」。

表7-4 表7-5 母親の就業形態別貧困率

表7-4 母親の就業形態別貧困率 (ふたり親世帯、単位：%)

	民間の正社員	公務員	契約・派遣・嘱託	パート	自営業	会社役員	その他	無業
小学5年生の世帯	2.9	0.0	7.9	8.7	14.4	3.6	9.5	10.6
中学2年生の世帯	1.3	0.0	5.4	10.5	8.6	8.0	12.8	8.6

注：手取り収入(可処分所得)ベースによる貧困率

出所：阿部・埋橋・矢野(2014)「大阪子ども調査」データを用い、田中弘美による推計。

表7-5 母親の就業形態別貧困率と平均世帯収入 (ふたり親世帯)

	正社員	契約・嘱託・派遣	パート・アルバイト	自営業ほか	無職
貧困率 (%)	4.4	11.9	8.6	18.1	12.4
平均年収額(万円)	797.7	575.1	552.2	576.0	617.8

注：税込み所得ベースによる貧困率

出所：労働政策・研修機構(2012)、図表6-3より引用して作成。

③ 世帯所得階層別(母親、父親の)仕事時間と育児時間

表7-7 所得階層別父母の仕事時間と育児時間 (ふたり親、6歳未満の子どもがいる世帯、単位:時間・分)

	母親の仕事時間				母親の育児時間			
	平日	土曜	日曜	平均	平日	土曜	日曜	平均
0-199万	6:48	1:32	0:30	5:25	0:25	2:57	2:54	1:01
200-399万	5:16	2:30	1:16	4:22	1:29	1:47	1:34	1:31
400-599万	5:02	1:57	0:57	3:55	1:36	1:53	1:41	1:39
600-799万	6:11	1:57	0:16	4:42	1:28	1:59	1:44	1:35
800-999万	5:56	1:43	0:55	4:38	2:37	1:54	1:56	2:25
1000万以上	5:19	2:05	1:31	4:27	1:57	2:51	2:28	2:07

	父親の仕事時間				父親の育児時間			
	平日	土曜	日曜	平均	平日	土曜	日曜	平均
0-199万	8:36	6:44	5:04	7:55	0:09	0:12	0:12	0:09
200-399万	9:11	6:24	2:36	7:52	0:19	0:35	0:46	0:25
400-599万	9:18	5:11	2:37	7:42	0:17	0:40	0:48	0:25
600-799万	9:12	3:20	1:50	7:05	0:14	0:55	1:04	0:29
800-999万	10:09	3:41	1:29	8:10	0:14	1:02	1:04	0:27
1000万以上	9:45	4:06	1:42	8:17	0:12	1:04	1:03	0:23

出所:山野良一(「経済階層と子育て・仕事時間」『千葉明德短大紀要』第32号、2011)の表1~表6から引用して作成

研究作業の結果

◆小さな子どもをもつ世帯であっても、相対的高所得層(900万円以上)の母親の就業率が高く、低所得層ほど就業率が低い傾向にある。

◆母親の就業によって、貧困率が劇的に低下するというのではなかったが、母親が正規職員として就労する世帯の貧困率は低い。本セミナーでは詳しく説明できなかったが、貧困な無業の母親の5人は1人は「今すぐ働く」ことを希望。「賃金の低さ」と折り合うような手頃な費用の保育所が利用できないなどの理由で、就業できない。貧困世帯の母親は、自分の所得が、子どもを含む世帯の経済的なやすらぎにとって必要であるにもかかわらず、就業を諦めざるを得ない。

研究作業の結果

◆生活時間(仕事、育児時間):低所得層の子どもたちにとって、休日を除くと、母親からさえも育児を受ける時間が絶対的に不足状態。父親による育児はほとんど受けられない。他方、高所得層の場合、休日になると、父親による育児が加わる。

◆アンデルセンの「未完の革命」の状況と重なっていることを示唆している。

研究作業の結果

ミラーとリッジの研究が示していること:

- ◆貧困への回帰が、母親の就業に伴う子どもにとっては歓迎しない代償をも受け入れる基盤となっている。それだけ貧困の体験は子ども自身を傷つけるものであり、貧困に戻ることへの恐怖や親の収入の喪失は、子どもにとって、非常にリアルな体験である。
- ◆子どもにとって重要なことは、親の持続的で安定的な就業とそこから得られる収入が、生活を営む上で妥当な水準であること。
- ◆親の就業が子どもと一緒に過ごす時間の保障を前提とするワークライフバランスがとれていること。
- ◆親の就業中に必要となる保育サービスが子ども中心に考慮された内容のもの。

本テーマの背後

◆子どもを含む世帯生活の維持:

必要な就業と必要な保障(就業による収入を補足する現金給付、住宅費や光熱水道費など生活基盤費に対する保障、子どもへの現金給付のより一層の保障、子ども自身へのサービス)の重要性。

◆「働くこと」の問い直し(上記の諸点を前提として、収入を得るということだけでなく):

社会的役割があること、社会的関係の維持、居場所があること
→母親自身の自己肯定観(自尊感情)、自信のよりどころ→子どもに与える良い影響

本テーマの背後

◆子どもにとって母親が働くということ(子どもの経済的基盤の維持という側面だけでなく):

子どもにとっても、母親の働く場所や職場の人間関係がより身近に感じられるような、場合によっては、学校帰りに立ち寄れるような環境作り。

◆『(母親の)職場と子どもとの良好な関係』を支え得るような職場環境の見直し。